

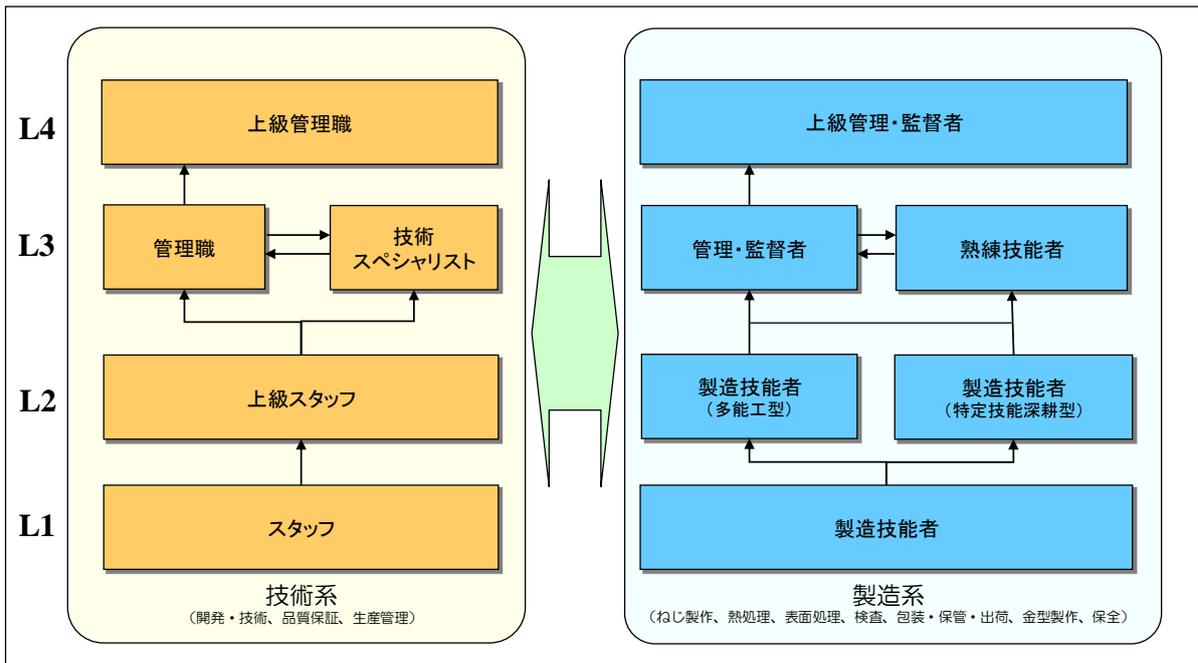
職業能力評価基準（ねじ製造業）におけるレベル区分の目安

- レベル3では、ライン管理職である「マネジメント系」と、ライン管理職ではないが高度な専門スキルを発揮して会社業績に貢献する「スペシャリスト系」に区分。
- レベル4では両者を統合し、こうしたコース区分は設定していない。

レベル	レベル区分の目安	
	技術系	製造系
レベル4	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模組織の責任者として、組織目標を設定し、広範かつ統合的な判断及び意思決定を行いながら組織を統率するために必要な能力水準。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模組織の製造ラインの責任者として、生産計画や組織目標を設定し、その達成に向けて組織全体を統率するために必要な能力水準。
レベル3	<p>マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中小規模組織の責任者として、上位方針を踏まえて担当組織の業務計画作成や管理運営を行うために必要な能力水準。 <p>スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高度な専門技術を有し、担当分野における技術開発や問題解決等を通じて、企業利益を創出するために必要な能力水準。 	<p>マネジメント系</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中小規模組織の製造ラインの責任者として、作業現場の管理・監督を行うために必要な能力水準。 <p>スペシャリスト系</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高度な技能を有し、精密な作業やトラブル解決等を行い、製品の高付加価値化に貢献するために必要な能力水準。
レベル2	<ul style="list-style-type: none"> ● グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準。 	
レベル1	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当者として、上司の指示・助言を踏まえて定型的業務を確実に遂行するために必要な能力水準。 	

ねじ製造業におけるキャリア形成の例[※]

技術系については、特定の専門領域に軸足を置きつつキャリアを深め、やがて組織業績に責任をもつ管理職や専門職に昇進する。
 製造系については、技能の幅を広げるパターン（多能工）、特定の技能を極めるパターン（熟練技能者）、管理監督者となるパターンなどが存在する。
 ただし、多くの企業では、技術系と製造系の間で頻繁な異動が行われており、技術系・製造系と明確な区分を設けないところも少なくない。



(※) ねじ製造業の企業において労働者が実践的な職業能力を形成していく際の道筋の一例を示したものです。